



▲唄をうたう木遣保存会



▲演奏を行う雅楽保存会

地域の話題

田原中部校区

いにしへの文化 薫るまち

古くから田原市の歴史・文化・経済の中心地として栄えてきた田原中部校区コミュニティ協議会から、文化・伝統の継承を担う団体について、お便りが届きました。

地域発!

巴江木遣保存会

木遣りとは、木をやり渡す（運ぶ）という意味で、重い木や石を大勢で運ぶ際、息を合わせるためにうたったもので、現在は棟上げや祝儀、または祭礼などの練り唄に転用されています。

巴江町内会の有志が中心となり、1997年に同好会が発足。現在は会員数60名で、4歳から75歳までの幅広い年齢層の皆さんが、巴江会館で定期的に練習を重ねています。

巴江木遣保存会の活動は、主に祭礼で、5月に巴江神社高德祭、10月に市民館まつり、2月に巴江神社節分祭、また個人の建前などで披露しています。

巴江木遣保存会では「木遣りの文

化の保存・伝承」を念頭におきつつ、会員相互の親睦も大切にし、楽しみながら活動をしています。

雅楽保存会

雅楽とは、アジア大陸の音楽が5世紀から8世紀にかけて伝来し、日本古来の音楽と融合したものです。明治に入ると、雅楽は一般庶民も親しめる音楽となりました。

巴江神社では、江戸時代、田原藩三宅家の伝統を引き継ぐ雅楽保存会があります。現在、会員（伶人）12名で活動しており、毎週月曜日午後7時30分から、巴江神社社務所にて練習を行っています。

活動の場としては、巴江神社の例大祭、高德祭、熊野祭、歳旦祭、節



分祭、慰霊祭など、神事の祭の奏楽、個人の結婚式などで披露しています。

演奏している楽器は、箏・篳篥・龍笛・笙の三管に、打ち物の鞆鼓・太鼓・箏（琴）です。普段はなかなか見たり聞いたりすることのない楽器による優雅な調べを、生で聴いてみるのはいかがですか。興味のある方はぜひ、一度足を運んでみてください。

雅楽保存会では、会員を幅広く募集しています。

▼田原中部市民館 ☎23局0030

伝統文化の継承

田原中部校区は歴史・文化・伝統を発信するまちとして、多くの方々が使命感と誇りをもち、伝統文化の継承を大切に考えています。伝統を守りながらも新しく発展していくことを目指しています。